

2021.06.22.tuesday

学修・教育開発センター（CRED）



授業の様子

「社会に向き合うプロジェクト」パート についてのご報告

前期の授業も半分を過ぎました。今回は、「社会に向き合うプロジェクト」の授業計画についてお知らせいたします。

「社会パート」の初回となります。まず第八回授業（六月十日）では、『個々人がベストパフォーマンスを発揮』すること、を阻んでいる社会問題について、チームで議論し、挙がった問題を整理しました。

続く第九回（六月十七日）の授業では、事前課題で異なる立場の方との対話や資料から問題を検討しておき、チームのディスカッションを深め、全ての人が活躍できる社会のための解決策も視野に入れた発表のテーマを決定しました。

第十回（六月二十四日）では、チームで決定した発表のテーマについて各自が調べてきた現状や問題点を共有し、解決策の提案に向けて、多面的なアプローチを検討します。

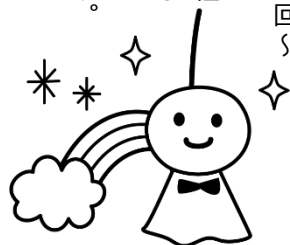
第十一回（七月一日）で、テーマの解決策を誰に向けて何

を強調して提案するのかを明確にし、解決策を決定、発表内容のポイントも考えます。

そして、第十二回（七月八日）で、各々の役割を果たしつつ、チームとして知恵を結集し、発表に向けての準備をすすめ、事後課題に、発表の動画と資料を提出をします。

「社会パート」の最終回となる第十三回（七月十五日）の授業では、チームごとに見やすさと聞き取りやすさを心がけながら、発表を行います。また、他チームの発表を傾聴し、質問をして、他者への理解を深めます。他チームの発表への評価・自己評価を行い、自身・チームの次の課題を見つけます。

学生は第二回、八回までの協同学習の経験も生かしながら、授業に臨んでいます。



教員からのレポート

「より良い学修の場の提供を目指して」

今回、スタートアップセミナーを担当する中で、改めて、共通の指導案等を用いることの難しさを感じている。ここでは、今後の改善を期待し、ひとりの担当教員として感じたことを記しておきたい。

まず、共通シラバスのもと、指導案や課題を含めた教材が統一され、準備されていることには、大きなメリットがある。一方で、担当教員は、到達目標等は維持しつつも、毎回のスライドや、指導順序や形態を変更し、カスタマイズする必要性が出てきた。特に、その中で苦慮したのが、示されていない最終目標とそれに

向かう道筋の学生との共有である。

授業を行う上で、教員は、その後、どのように授業が進み、最終的にどのような到達目標へと向かうのかを理解している。一方、学生は、次々に出される課題をただ単にこなすという作業になりがちであり、今、目の前にある課題が、次に、そして、最終的にどう繋がるかを理解するのは自力では難しい。

是非、今後のスタートアップセミナーが、より学生にとって有意義な学修の場を提供できるよう、このような小さな点から改善されることを期待する。

Report
11

田頭 憲二 准教授

人文学部

英語コミュニケーション学科

「新生生の力になれるよう努力する、貴重な経験」

私には教員になるという目標があります。その目標を叶えるために、自分にできることは何か、大学生活をより充実できないだろうかと思い悩んでいたときに、SA募集を見つけました。昨年履修したスタートアップセミナーで、学生にアドバイスをし、将来について語るSAさんの姿を見て、素敵だなと感じた記憶は今でも鮮明に覚えています。また、学生に教える立場になることで、新たに自分に身に付く力も多くあるだろうと感じ、SAになることを決意しました。

授業で取り扱う資料は多く、考えをまとめることは大変です。最初は戸惑って

いたグループワークも、今では慣れてきている様子が伺えます。資料に対して十人十色の意見を持ち、グループ内でしっかり共有し、有意義な話し合いになっていると感じます。

第4回授業のSA発表では、ありのままの自分について語りながら、1年生へのメッセージを伝えることができました。発表後に学生さんから、前向きに積極的な気持ちで大学生活を過ごしていきたいという声を多くいただきました。残りの授業も立派なSAとして、皆さんの力になれるように努力していきたいと考えています。



O.K.さん

家政学部 2年
環境教育学科

授業の感想を紹介します

「どんなことが、個々人がベストパフォーマンスを発揮することを阻んでいるのか」について、考えたことをまとめていただきました。いくつかのレポートを紹介します。

- 私は、学校教育において個性を否定されてしまうことによりベストパフォーマンスを発揮することが阻まれていると思いました。日本の学校では“みんなと同じように行動すること”が正しいという風潮があります。幼いころから根付いた風潮によって成長しても人と違うことを恐れている人が多いと思います。アメリカの教育との違いは日本の学校では発言する機会が少ないということでした。子ども一人ひとりが思ったことや考えたことを自由に発言する機会を増やすことで人前で発することへの抵抗を減らし、人と意見が違ってもそれは個性だという思いがお互いに根付くのではないかと考えました。
- 家庭の経済格差によって十分な教育を受けられない子どもがいて、教育格差が生まれてしまうのは、子どもの将来に関わります。経済状況によって子どもの学ぶ機会が奪われ、低所得の職業に就かざるを得ないというのは貧困の世代間連鎖につながる大きな問題です。経済的理由によって選択もすることができないのは、個々人がベストパフォーマンスを発揮することを阻んでいると思います。
- 私はジェンダー不平等の問題やLGBT差別の問題が個々人のベストパフォーマンスを発揮することを阻んでいると思います。男性や女性といった区別の固定概念を無くし、平等な世界になる必要があると考えます。お互いに尊重し合い、理解を深めていくことが大切だと思います。

HPのご紹介

ホームページには、スタートアップセミナー自主自律の科目の概要・特徴の説明をはじめ、SA制度についての紹介ページがあります。この広報誌も掲載していますので、是非、定期的にチェックいただければ幸いです。



下記URLもしくは、左のQRコードからアクセスください。
https://www.tokyo-kasei.ac.jp/campus-support/cred/startupseminar_top.html